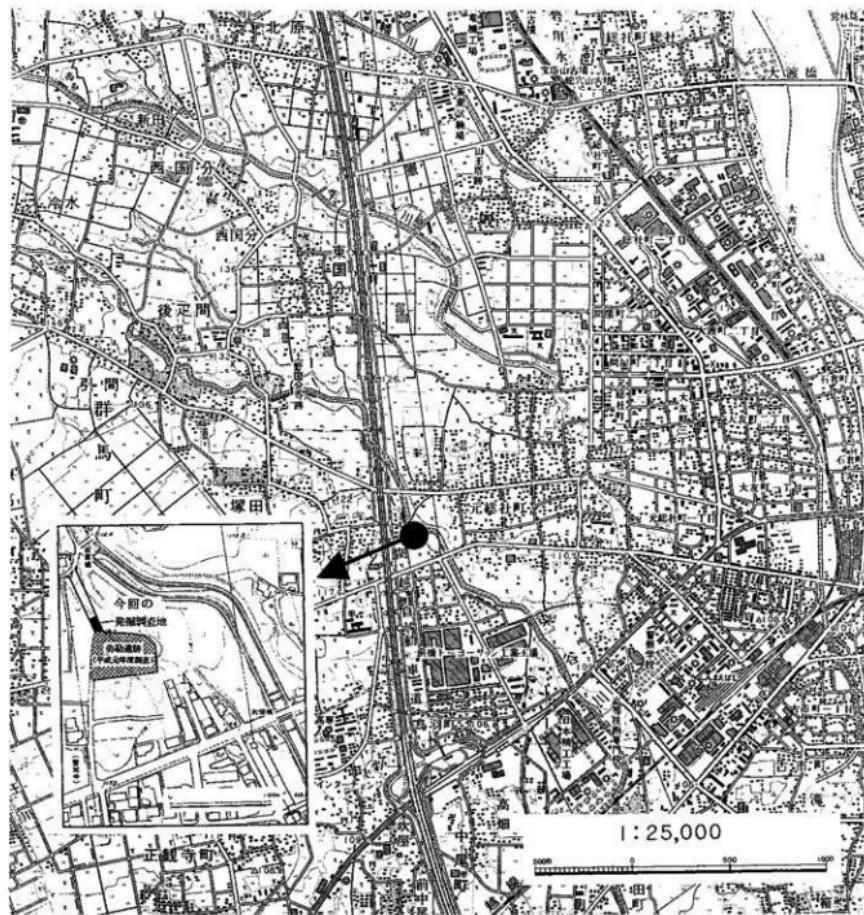


弥 勒 遺 跡 II

--宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書--

はじめに

本書は宅地造成に伴い、前橋市教育委員会が事業者（高木建設株式会社 株式会社スズケン）の協力を得て実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書であり、平成2年発行の「弥勒遺跡」に追加するものである。



調査の経過

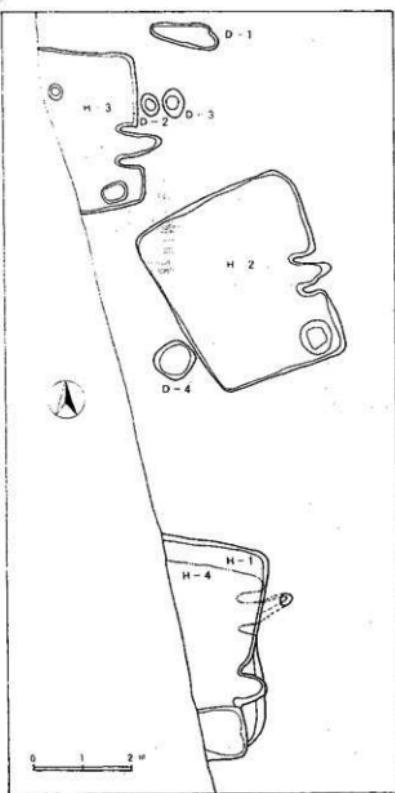
本遺跡地は、平成元年に調査された「弥勒遺跡」の北側に隣接している。開発事業者の確認調査依頼を受け平成7年5月17日に試掘調査を行った。その結果、古墳時代～奈良・平安時代の住居址3軒以上が確認されたため教育委員会と開発事業者で協議し、平成7年5月29日から平成7年6月2日にかけ本発掘調査が行われた。

H-1号住居址からH-3号住居址、D-1号土坑からD-4号土坑を調査したのち、切り合いのあったH-4号住居址の調査を実施した。

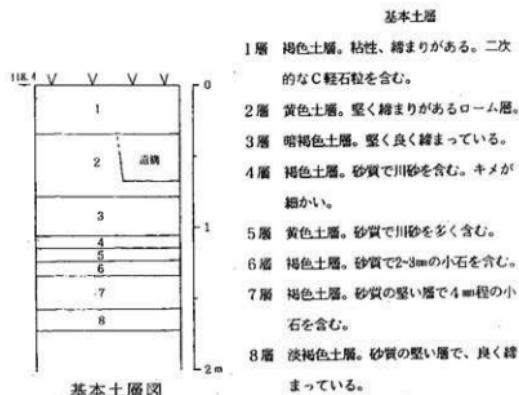
測量の基準点は、公共座標第IX系X = +42,740m、Y = -71,970mを基に設定した。

本年度の発掘調査では、古墳時代から平安時代にかけての住居址4軒、土坑4基が検出された。平成元年度調査の弥勒遺跡と合わせると住居址25軒、土坑12基となり、弥勒遺跡の北側の範囲を拡大したことになる。

42754



発掘調査全体図 (1/100)



凡例

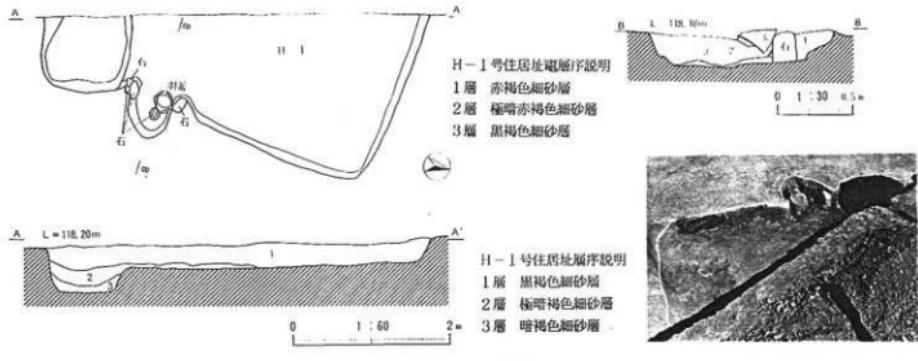
- 各遺構の略称は次のとおり。
H…土師器住居址、D…土坑、P…柱穴・貯蔵穴
- スクリントーンの使用は次のとおり。
遺構断面図 構築面…斜線
- 遺物断面の黒塗りは須恵器であることを示す。

42765
42766

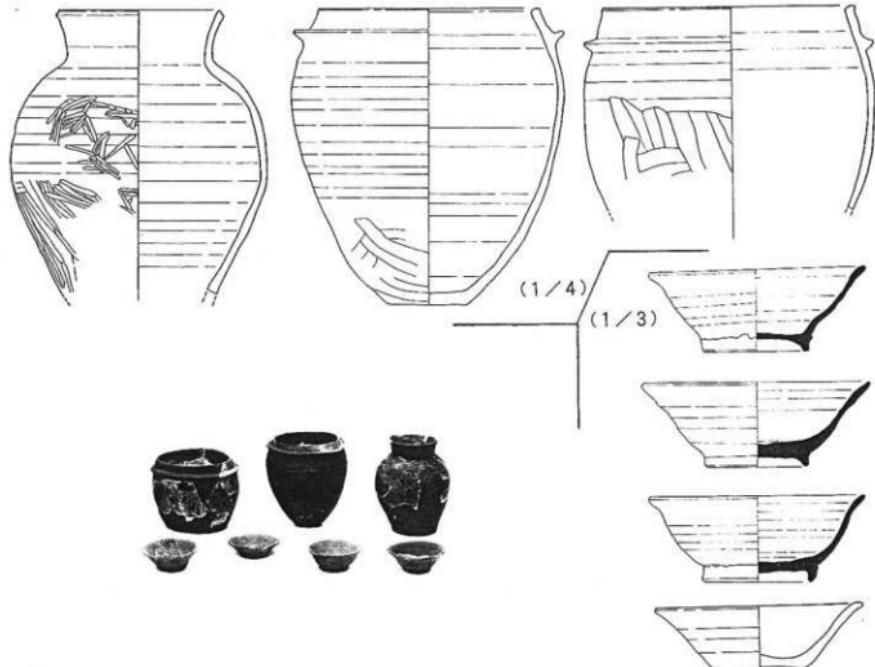
遺構と遺物

H-1号住居址

重複 H-4を切る。形状 長方形と推定される。規模 南北4.30×東西不明 確認面までの壁高は15cm。面積 不明。方位 N-81°-W 覆土 3層に大別できる。床面 貼り床。竈址 東壁に位置し袖石を使用。右は河原石3個、左は凝灰岩を使用。支柱石は凝灰岩を使用。遺物 総数413個の遺物が出土した。羽釜、布目瓦を含む。備考 東部分（調査区内）のみ調査。長径105×短径82×深さ24cmの貯蔵穴1個を検出。柱穴は検出されず。平安時代。



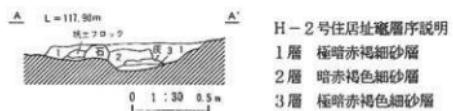
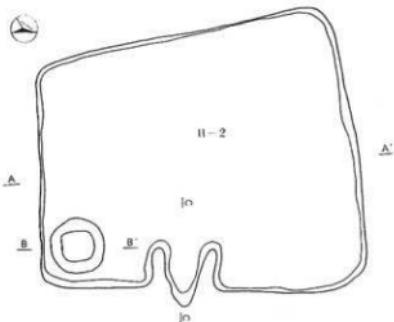
H-1号住居址



H-1号住居址出土土器

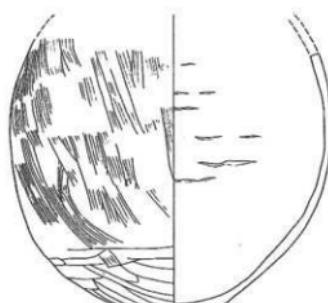
H-2号住居址

形状 長方形 規模 長軸4.00×短軸3.50m 確認面までの堀高は7cm。面積 11.92m² 方位 N-67° - E 覆土 1層 床面 堅い床面を検出。土器片が多数出土。置し。抽石は左右とも凝灰岩を使用。遺物 総数108個の遺物が出土した。長径68×短径65×深さ43cm。古墳時代後期。



H-2号住居址

H-2号住居址層序説明
1層 黒褐色細砂層

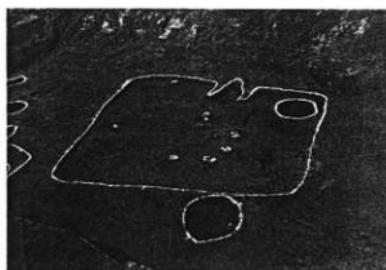


(1/4)



(1/3)

H-2号住居址出土土器



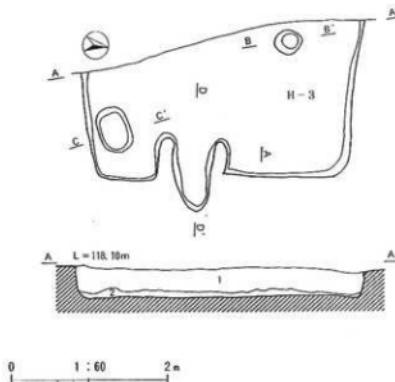
H-2号住居址



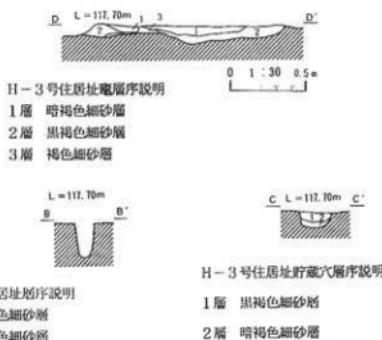
H-2号住居址出土土器

H-3号住居址

形状 長方形と推定される。規模 南北3.50×東西不明 確認面までの壁高は4cm。面積 不明。
 方位 N-86°-E 覆土 2層に大別できる。床面 堅い床面を検出。竪穴 東壁中央部や
 や南よりに位置。柱穴 1個検出。主柱穴(P₁)1個:長径35×短径28×深さ44cm 遺物 総数38個
 の遺物が出土した。備考 東部分(調査区内)のみ調査。長径57×短径38×深さ20cmの貯蔵穴(P₂)
 1個を検出。古墳時代後期



H-3号住居址



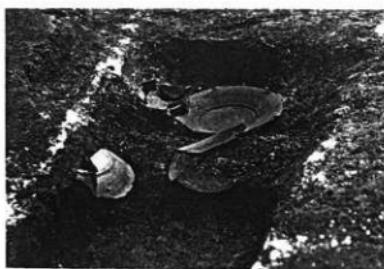
H-3号住居址貯蔵穴層序説明
1層 黒褐色細砂層
2層 暗褐色細砂層



H-3号住居址



調査地全景



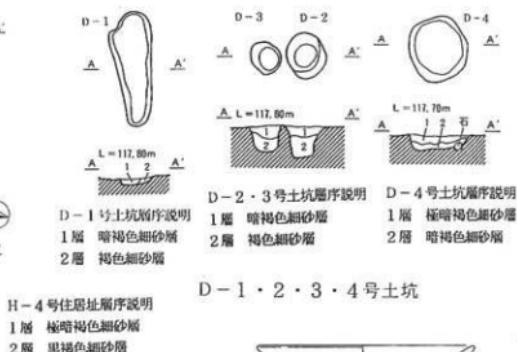
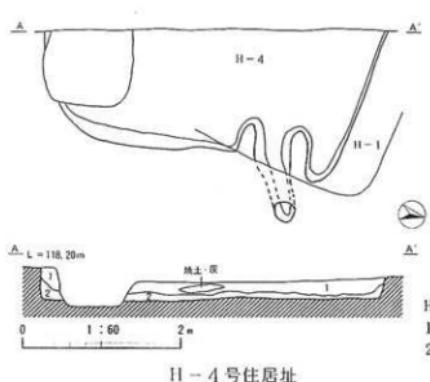
D-1号土坑土器出土状況



H-4号住居址出土土器

H-4号住居址

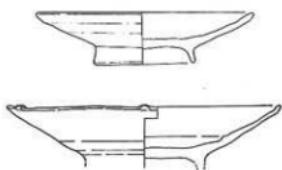
重複 H-1に切られる。形状 西側部分が調査区外であるが長方形と推定される。規模 南北4.04×東西不明 確認面までの壁高は38cm。面積 不明。方位 N-90°-E 覆土 2層に大別できる。床面 堅い床面を検出。竈址 東壁中央部北よりに位置。遺物 総数72個の遺物が出土した。備考 東部分(調査区内)のみ調査。柱穴は検出されなかった。古墳時代後期。



D-1・2・3・4号土坑



H-4号住居址出土土器 (1/3)



D-1号土坑出土土器 (1/3)

D-1号土坑

形状 長方形 規模 長径140×短径42×深さ8cm 覆土 2層に大別できる。遺物 総数66個の遺物が出土した。内黒高台皿2個出土。備考 平安時代。

D-2号土坑

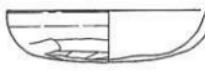
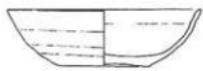
形状 円形 規模 長径58×短径50×深さ39cm 覆土 2層に大別できる。内側に黄色の粘土を検出。遺物 総数2個の遺物が出土した。備考 時代不明。

D-3号土坑

形状 円形 規模 長径40×短径35×深さ32cm 覆土 2層に大別できる。遺物 総数5個の遺物が出土した。備考 時代不明。

D-4号土坑

形状 円形。 規模 長径78×短径73×深さ14cm 覆土 2層に大別できる。南隅に石を検出。遺物 総数8個の遺物が出土した。備考 古墳時代後期。



遺構外出土土器 (1/3)

成果と問題点

弥勒遺跡では、平安時代の住居址が多かったが、本年度は古墳時代の住居址が多かった。周辺地域の発掘調査により、今後、弥勒遺跡の古墳時代と平安時代の集落の広がりが開明されていくものと考えられる。

本年度の調査では、H-1・3・4号住居址は調査区域外のため全容が明かにならなかったが、竈は東竈であり、東壁の中央部やや南よりに設置されていたことにより、住居の構造はほぼつかむことができた。

土坑は4基検出された。D-1号からは、内側を黒く塗った高台皿が2個出土した。このうちの1個は口縁には5個の突起を持っている。弥勒遺跡から初めての出土であり、他の遺跡との類例を調査することで、遺跡の時期や特徴を知るうえで貴重な遺物と考える。



遺構外出土土器



D-1号土坑出土土器



弥勒遺跡II全景

抄
録

フリガナ	ミロクイセキニ
書名	弥勒遺跡II
副書名	宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	戸所慎策 大山知久 吉田聖二
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	前橋市上泉町664-4
発行年月日	西暦1996年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東經			
ミロク イセキニ 弥勒遺跡II	ミロクイセキニトツカツヤマチ 前橋市元総社町1213-4番地	10201	7M40	36°23'00"	139°01'51"	19950529 19950602	100m ²	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
弥勒遺跡II	集落	古墳時代 平安時代	堅穴住居址3軒 土坑3基 堅穴住居址1軒 土坑1基	土師器、須恵器(甕・杯) 土師器、須恵器(甕・杯)、瓦	なし

編集・発行 前橋市教育委員会
前橋市上泉町664-4